



# 日本地球化学会ニュース

No. 213      June 2013

## Contents

年会・総会報告	2
2013日本地球化学会年会のお知らせ(2)	
学会からのお知らせ	4
日本地球化学会・日本鉱物科学会両学会合同ショートコース2013	
2013年度第2回鳥居基金助成の募集	
評議員会議事録	6
2013年第1回日本地球化学会評議員会議事録	

## 年会・総会報告

### 2013日本地球化学会年会のお知らせ

**主催：**日本地球化学会

**共催：**国立大学法人筑波大学，日本鉱物科学会，日本化学会，日本質量分析学会，日本地質学会，日本分析化学会

**会期：**平成25年9月11日(水)～13日(金)

**会場：**筑波大学第一エリア1D棟，1E棟（鉱物科学会は1B棟，1C棟）

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

**年会 web site：**<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2013/>

**交通：**TXつくば駅6番バス停から（筑波大学中央行きバス 第一エリアバス停，筑波大学行き（右回り）第一エリアバス停，または，筑波大学行き（左回り）大学公園バス停）

東京駅発高速バス 大学会館前より徒歩3分

なお，学会期間中筑波大に学会専用駐車スペースを設けますので，自家用車でのご来場も可能です。

アクセス方法の詳細については，下記のサイトを参照下さい。

[http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba\\_access.html](http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html)（筑波大へのアクセス）

[http://www.tsukuba.ac.jp/access/map\\_central.html](http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_central.html)（キャンパス内地図）

**宿泊：**年会専用宿泊プランについては年会サイトを参照下さい。

**内容：**口頭発表及びポスター発表，夜間小集会，学会賞記念講演，総会，懇親会。関連イベントとして，市民講演会，ショートコースも開催します。

**講演セッション：**2つの特別セッションと17の学会基盤セッションの他に，今年会は日本鉱物科学会との合同開催のため，4つの両学会共通セッションが行われます。4つの共通セッションは地球化学会・鉱物科学会が2つずつ担当し，講演申込もそれぞれの学会が担当することになっています。このお知らせの最後に各セッションテーマをまとめて示しますのでご覧ください。

**学生発表賞：**きわめて優れた口頭・ポスター発表を行った日本地球化学会学生会員に授与します（表彰式は学会最終日のクロージングセレモニーの際に行います）。学生発表賞を希望される学生会員は講演申請時にエントリーして下さい。学生発表賞を希望

され，学会に未入会の方は早めに入会手続き（書類提出+入金）をお済ませ下さい。

**講演申込と講演要旨原稿受付：**同時に行います。要旨原稿の提出を行わないと講演申込は完了しません。年会サイトからのみ受け付けます。

**講演申込受付期間：**

特別・学会基盤セッション

6月13日(木) 14時から7月17日(水) 14時まで  
共通セッション

6月7日(金) 14時から6月23日(日) 14時まで

\*今年には合同開催でもあるため講演申込日程の延長ができないこと，また，特別・学会基盤セッションと共通セッションで締切日が異なることにご注意ください。講演要旨の書き方は，本ニュース最後にある「講演要旨作成上の注意」または上記年会サイトをご覧ください。今年会から講演要旨の送付方法が変更されましたのでご注意ください（PDFファイルとテキストの両方が必要）。年会サイトからの申し込みが困難な場合は，下記の年会事務局あてに締切の1週間前までにご連絡ください。なお，投稿する要旨の原稿は締切日までは修正可能ですが，締切日を過ぎたあとは一切修正できずそのままJ-STAGEでも公開されます。

**参加予約申込：**年会サイトから，指示に従って申し込んでください。6月7日(金) 14時から8月23日(金) 14時まで（割引料金が適用されます）。8月23日以降は，当日会場受付にて申込みください。

**プログラムの公表：**プログラムは講演申込終了後直ちに作成され，8月上旬に年会サイト上に公開されます。年会前の要旨集の配送は行いませんので，プログラムの確認は年会サイトで行ってください。8月末頃に配布される地球化学会ニュースにもプログラムを掲載します。なお，講演要旨は8月末頃にJ-STAGE上で公開されます。

**参加登録費（講演要旨集1部含む）：**

予約：一般会員5,000円，学生会員2,000円，  
会員外一般6,000円，会員外学生3,000円  
当日：一般会員6,000円，学生会員3,000円，  
会員外一般7,000円，会員外学生4,000円

\*なお，会員は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します。当日受付で入会申込された方も会員扱とします。学部生は無料（但し要旨集なし）。

**懇親会：**9月12日(木) 学会賞等受賞講演終了後，ホテルグランド東雲にて。なお，当日は年会会場から懇

親会会場までの貸し切りバスによる輸送を行います。

事前予約5,500円(学生3,000円),

当日7,000円(学生4,000円)

**講演要旨集**: 当日手渡し3,000円/部,

後日郵送3,500円/部

また、地球化学会で参加登録されている方は鉱物科学会年会の本年度要旨集を1,500円で購入できます(当日手渡しのみ、郵送はしません)。なお、4つの共通セッションの要旨は地球化学会・鉱物科学会両方の要旨集に掲載されています。

**合同学会特別規定**: 今回は日本鉱物科学会と同日合同開催のため以下のように両学会で取り決めております。

1. 参加登録料・懇親会費は両学会で同額。
2. 地球化学会固有セッション(特別・基盤セッション)で発表する場合の講演申込および参加登録は通常の年会と同じように日本地球化学会の準備する年会サイトから行う(鉱物科学会側も同様)。
3. どちらか一方の学会で参加登録をすれば共通セッションでの発表が可能。
4. 地球化学会の参加登録だけでは鉱物科学会の固有セッションへの講演申込はできないが、聴講と質疑応答には自由に参加できる(鉱物科学会側も同じ)。
5. 地球化学で参加登録をした場合、固有セッションと共通セッションのそれぞれ1件ずつ(合計2件)まで口頭発表が可能。ポスター発表数は制限がない。

**予約申込による参加登録費・懇親会費・講演要旨集代金の支払い方法**: 年会サイトから、クレジットカードによるオンライン決済でお願いいたします。なお、各種の支払いは代理で行うことも可能です。クレジットカードによるお支払いが困難な場合は、年会事務局に締切の1週間前までにお問い合わせください。年会当日の参加登録費お支払いは現金となります。領収書を必要とする場合は、年会当日に受付にお申し出ください。

**併設展示**: 関連機器メーカーその他による展示会を併設する予定です。詳細については年会事務局にお問い合わせください。

**小集会**: 学会期間中の昼食時間、あるいは講演終了後に小集会を行うことができます。希望されるグループは年会事務局にお問い合わせください。

**託児サービスについて**: 学会期間中に託児サービスの利用を希望されるかたは年会事務局に早めにご相談ください。

**お問い合わせ先**:

〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2

国立環境研究所 地球環境研究センター内2013年度  
日本地球化学会年会事務局

E-mail: 2013@geochem.jp

**セッションテーマ**: 各セッションの概要については、年会サイトをご覧ください。

**共通セッション(日本地球化学会と日本鉱物科学会の共通セッション)**:

J1 地球外物質科学の現状と未来

(担当: 橘省吾(北大)・三河内岳(東大)・藪田ひかる(大阪大学大学院))

J2 地球内部・高压化学

(担当: 鍵裕之(東大)・糀谷浩(学習院大)・山本順司(北大))

J3 炭酸塩の地球化学

(担当: 川幡穂高(東大)・小暮敏博(東大)・鈴木淳(産総研))

J4 水岩石相互作用

(担当: 奥山康子(産総研)・高橋浩(産総研)・土屋範芳(東北大)・藤本光一郎(学芸大)・福士圭介(金沢大)・斉藤拓己(東京大)・高橋嘉夫(広島大))

**特別セッション**:

S1 地球化学と生理学: 生体プロセスの研究から地球化学へ

(担当: 沢田健(北大)・力石嘉人(JAM-STECC)・中村英人(北大))

S2 初期地球と生命起源の地球化学

(担当: 藪田ひかる(阪大)・古川善博(東北大)・小宮剛(東大)・吉田尚弘(東工大)・平田岳史(京大))

**学会基盤セッション**:

G1 大気微量成分の地球化学

(担当: 谷本浩志(環境研)・豊田栄(東工大)・松本潔(山梨大)・持田陸宏(名古屋大)・角皆潤(名古屋大))

G2 古気候・古環境解析の地球化学

- (担当：入野智久(北大)・渡邊剛(北大)・中塚武(名大)・横山祐典(東大)・原田尚美(JAMSTEC)・長島佳菜(JAMSTEC))
- G 3 放射性廃棄物と地球化学  
(担当：日高洋(広島大)・大貫敏彦(JAEA)・吉田英一(名古屋大)・河田陽介(三菱マテリアル))
- G 4 鉱物境界面の地球化学，水—岩石相互作用  
(担当：高橋嘉夫(広島大)・福士圭介(金沢大)・斉藤拓巳(東大))
- G 5 海洋における微量元素・同位体  
(担当：小畑元(東大)・張勁(富山大)・則末和宏(新潟大)・堀川恵司(富山大))
- G 6 炭化水素資源の地球化学・深部炭素循環  
(担当：早稲田周(JAPEX)・坂田将(産総研)・鈴木徳行(北大)・佐野有司(東大))
- G 7 地球表層水圏と生態系  
(担当：丸岡照幸(筑波大)・和田茂樹(筑波大)・瀬戸繭美(奈良女子大)・益田晴恵(大阪市立大))
- G 8 マントル物質の化学とダイナミクス  
(担当：下田玄(産総研)・鈴木勝彦(海洋研究開発機構)・小木曾哲(京大)・石川晃(東大))
- G 9 地球外物質・宇宙惑星化学  
(担当：坂本尚義(北大)・若木重行(JAMSTEC)・馬上謙一(北大))
- G 10 同位体効果研究の地球化学への応用  
(担当：武蔵正明(首都大)・大井隆夫(上智大)・野村雅夫(東工大)・谷水雅治(海洋機構))
- G 11 現世および過去の有機物・微生物・生態系の地球化学  
(担当：川幡穂高(東大)・奈良岡浩(九大)・山本正伸(北大)・高野淑識(JAMSTEC))
- G 12 水圏環境化学  
(担当：板井啓明(愛媛大)・坂田昌弘(静岡県大)・太田充恒(産総研)・高橋嘉夫(広島大))
- G 13 海洋化学・大気水圏(全般)  
(担当：植松光夫(東大)・濱健夫(筑波大))
- G 14 固体地球化学(全般)  
(担当：折橋裕二(東大)・大野剛(学習院大)・小宮剛(東大)・山本伸次(東大)・角野浩史(東大))
- G 15 固体地球における水とその役割

- (担当：岩森光(東工大)・小木曾哲(京大)・石橋純一郎(九大)・野口直樹(東大)・益田晴恵(大阪市立大))
- G 16 地球化学の人文科学への応用  
(担当：丸岡照幸(筑波大学)・北川浩之(名古屋大学)・宮田佳樹(名古屋大学)・南雅代(名古屋大学))
- G 17 分析化学・物理化学  
(担当：平田岳史(京大)・横山哲也(東工大)・大野剛(学習院大))
- G 18 原発事故で放出された放射性核種の環境動態  
(担当：高橋嘉夫(広大)・吉田尚弘(東工大)・海老原充(首都大)・恩田裕一(筑波大))

## 学会からのお知らせ

### ●日本地球化学会・日本鉱物科学会両学会合同ショートコース2013

参加申し込み開始のお知らせ

鉱物科学では、材料科学だけでなく、コア、マントル、地殻、表層、惑星とあらゆる空間を対象とする物質科学的切り口で発展してきた。一方で地球化学は、実験・分析技術、データ解析技術の急速な発展を背景に、得られる地球化学的知見の質と量が飛躍的に向上し、地球科学分野の発展を基盤から支える重要な学問となっている。地球化学は手法で定義され、鉱物科学は対象で定義されているという違いはあるが、両者に共通しているのは、最近の急速な発展にともない、研究の専門化が加速し、その結果一人の研究者が分野全体を俯瞰しながら問題の本質を見抜き、その解決に向けて多角的に研究を進めることが難しくなった点である。こうした背景から、日本地球化学会では地球化学を研究する上で必須となる基礎知識の包括的修得と、最先端研究に触れることによる視点の拡大という二つの目標を掲げ、2006年から大学生・大学院生を対象とした「ショートコース」を年会日程に合わせて開催してきた。本年は、日本鉱物科学会と日本地球化学会が年会を同日合同開催(2013年9月11~13日)であることから、両分野を横断する研究者を講師として迎え、様々な研究分野での最先端の学術研究の紹介を通じて、これまでとは異なる新しい切り口から将来の研究動向を考える機会を提供したい。講師は各分野で活躍されている5名の方々と、今年も地球化学・鉱物科学の面白さが実感できる講義構成となった。さらに本年

のショートコースでは、英語プレゼンテーション技術に関する講義も計画しており、学術研究知識の拡大と研究推進を支える基礎知識の包括的修得を目指した。学生だけではなく、一般の研究者の方々にとっても魅力のある講義となったので、多数ご参加をお願いしたいと思います。

平田岳史（京都大学大学院理学研究科）

## ●日本地球化学会・日本鉱物科学会両学会合同ショートコース

### 講演プログラム

はじめに 9:30～9:40

平田岳史（東工大）

9:40～10:50

【講演1】鉱物の記憶—太陽系・銀河系

橋 省吾（北海道大学）

10:50～11:00 討論

11:00～12:10

【講演2】データ時代の地球化学

岩森 光（東京工業大学）

12:10～12:20 討論

12:20～13:20 昼食（お弁当とお茶を用意します）

13:20～14:30

【講演3】鉱物科学と地球深部物理学

井上 徹（愛媛大学）

14:30～14:40 討論

14:40～15:50

【講演4】若いなら やらなきゃ損 有機物

大河内直彦（海洋研究開発機構）

15:50～16:00 討論

16:00～17:10

【講演5】Improving oral presentation skills

Thomas Parkner（Univ. Tsukuba）

17:10～17:20 討論

17:20～17:30 【Closing】

### (1) 開催日時・場所

日時：平成25年9月10日（火曜日）

午前9時30分～夜6時頃まで

会場：つくばサイエンス・インフォメーションセンター大会議室

<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/13/007366.html>

（参考：日本地球化学会・日本鉱物科学会同日合同年会：2013年9月11～13日）

会場へのアクセス方法については、下記ホームページをご覧ください。

つくばサイエンス・インフォメーションセンター：

<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/13/007366.html>

日本鉱物科学会年会ホームページ：

<http://jams.la.coocan.jp/nenkai.html>

日本地球化学会年会ホームページ：

<http://www.geochem.jp/meeting/index.html>

筑波大学キャンパスマップ：

<http://www.tsukuba.ac.jp/access/index.html>

### (2) 参加費

3,000円（講師謝金費、資料代、弁当代等を含む）。当日受付で徴収いたします。

但し、日本鉱物科学会学生会員・日本地球化学会学生会員は学会からの補助により2,000円引とします。

### (3) 申込み方法

以下のサイトから申し込み要旨（エクセルファイル）をダウンロードし、必要事項を記入の上、平田まで送付ください。申し込み受付後に、確認のメールをお送りします。もし一週間以内に確認のメールが届かない場合は、お手数ですが平田まで連絡してください。

<http://www.kueps.kyoto-u.ac.jp/~web-geochem/ShortCourse2013.html>

### (4) 定員・申込締切

50名（先着順）。9月2日（月）を参加申込締切日としますが、定員になり次第、参加申し込みを締め切らせて頂きます。主として日本鉱物科学会・日本地球化学会の子学生会員を対象としますが、学生以外の参加も歓迎します。

### (5) お問い合わせ

不明な点などございましたら下記連絡先までメールでお問い合わせください。

平田岳史（京都大学大学院理学研究科）：

[hrt1@kueps.kyoto-u.ac.jp](mailto:hrt1@kueps.kyoto-u.ac.jp)

## ●2013年度第2回鳥居基金助成の募集

2013年度第2回鳥居基金助成の応募の締め切りは、2013年7月31日（消印有効）となります。本学会ホームページに応募要項がありますので、ご参照の上、応募書類を提出して下さい。なお今回の助成の対象は、2013年10月から2014年9月までの1年間に実施される海外渡航及び国内研究集会となりますのでご注意ください。

<http://www.geochem.jp/prize/torii.html>

#### 申請手続

応募者は、学会ホームページからダウンロードした申請書（(1)－A または (1)－B）を所定の期日までに下記に提出して下さい。参考となる資料（海外派遣については業績リストおよび学会参加の場合は学会概要等、国内研究集会については集会の案内・概要等）を添付してください。なお、海外渡航により国際学会等での研究発表を行う場合は、申請書の「研究の概要・経費の支援を必要とする理由」欄に、渡航にあたっての抱負や発表する論文の内容・重要性、なぜ鳥居基金の補助を必要とするかについて記載して下さい（様式が改訂されていますのでご注意ください）。また、海外派遣に関しては、他の研究助成金との重複受給は認められておりませんので、ご注意下さい。

#### 提出先：

豊田 栄（庶務幹事）  
〒226-8502 横浜市緑区長津田町4259  
mailbox G 1-26  
東京工業大学大学院総合理工学研究科  
環境理工学創造専攻  
Phone：045-924-5559 Fax：045-924-5559  
E-mail：affairs@geochem.jp

### 評議員会議事録

#### ●2013年第1回日本地球化学会評議員会議事録

日時：2013年2月9日(土) 12：00～16：45

場所：JAMSTEC 東京事務所

出席者：吉田会長、山本副会長、清水監事（オブザーバー参加）、板井、植松、小畑、折橋、佐野、下田、高橋、谷水、角皆、原田、日高、平田、益田、丸岡、南、塚本、横山、豊田の各評議員

欠席者：岩森、川幡、谷本評議員

#### 1. 審議事項

##### 1.1. 第3回および第4回評議員会議事録の確認

##### 1.2. 2013年度各種委員会委員長の委嘱

学会賞等選考委員長および鳥居基金委員長が承認された。

##### 1.3. 地球惑星連合大会プログラム委員の承認

2013年度委員として横山哲也、小畑元、下田玄の各会員が承認された。

##### 1.4. 役員選挙について

2013年度選挙管理委員として高橋評議員および谷水評議員が選出された。

##### 1.5. 国際文献社との2013年度契約

学会業務委託契約は2012年度と同じ内容、ホームページ制作業務委託契約は更新作業・運用費が1,000円/月増額となる以外は2012年度と同じ内容、年会関連業務委託契約は2012年度と同じ内容とすることが承認された。なお、年会関連業務委託契約の仕様の詳細（年会ホームページ等）については、昨年の九大 LOC から出た意見を踏まえて国際文献と交渉し、必要があれば追加の必要経費を学会から支払う。

##### 1.6. 2013年（第60回）年会について

丸岡評議員（LOC 野尻委員長の代理）による日程、会場、準備状況についての報告の後、以下を審議、決定した。(1) 本年会では日本鉱物科学会との共同開催という特色を既に掲げていることから、特に60回記念行事は行わず、来年の第61回年会で学会設立60周年の記念行事を行う。(2) 学生発表賞を今年も設定し、評議員が審査を行う。(3) つくば LOC 提案の、J-Stage で公開された個々の要旨を日単位でまとめて年会 HP で全文公開する件は承認するが、鉱物科学会との共通セッションにおける鉱物科学会会員の要旨の取り扱い（特許に関わる公開ポリシー）に留意するとともに、これを今後の年会の前例とはしない。(4) 年会前日に鉱物科学会と共催するショートコースに参加する鉱物科学会の学生会員の参加料金は本会学生会員と同額にする。

##### 1.7. 年会への外国人研究者招聘について

2012年の年会で実現しなかった中国鉱物岩石地球化学会の劉会長の特別講演を2013年に実施すること、講演内容を GJ に invited review または Articles として投稿してもらうことが幹事会から提案され、承認された。今後、海外の学会との人的交流を進める上で年会への外国人研究者の招聘や講演依頼は望ましいが、定期的に行うかどうか（国際賞の創設を含む）、経費（旅費等）支出の方法などについて平田企画幹事を中心に検討を進めることとした。

##### 1.8. 学術会議の大型研究計画について

日本学術会議が進める「学術の大型研究計画マスタープラン」の提案募集（募集期間：2月15日から

3月末まで)に対する本会の対応が審議され、以下の方針が決定された。

- (1) 日本地球惑星科学連合 (JpGU) の全セクションを対象分野とする本会の特色を活かし、本会単独で提案する。
- (2) 形式上の提案者は会長となるが、実質的な責任者としては本会の若手リーダーが望ましく、高橋嘉夫会員を推薦する。ただし研究対象分野が広範囲にわたるので、高橋会員が必要に応じて会長、副会長を含む数名の会員と協同して課題名、提案内容を検討する。

#### 1.9. 法人化について

Goldschmidt (GC) 2016日本開催時の運営上、法人化が有益ではないかとの益田 GC 幹事の提案に対する幹事会による以下の検討結果が報告され、承認された。

- ・法人化にかかる経費 (今後見積もりを依頼する) や弁護士相談費用などが高額になりそう
- ・GC 2016の寄付件数や金額はそれほど多くならないのではないかと予測がある。さらに、JpGUまたは日本政府観光局 (JNTO) を経由して集めても不都合は発生しないと思われる
- ・事務が煩雑になる。たとえば今年法人化する場合には役員選挙後に理事名簿を作成する必要がある。

#### 1.10. GC 2016について

益田準備委員会委員長から準備状況が報告された。準備委員会運営要綱(案)における、本会が関わる条項が承認された。また、会場の予約金 (6月末が支払い期限) を本会から借入れたいとの申し入れがあり、承認された。本会の会計から貸し出す方向で動くが、貸し出しの予算上の項目は Goldschmidt 基金の枠を含め、会計幹事が検討する。また、他に無利子で借りられる資金も検討すべきとの意見が出された。

#### 1.11. テラパブからの要望について

テラパブ押田氏より GJ の販売促進を目的として要請された以下2点が承認された。

- (1) Geochemical Society (米国地球化学会) 発行の Elements 誌での GJ の広告掲載
- (2) 今年の Goldschmidt 会議で参加者に配布される資料に GJ のパンフレット・チラシを差し込むこと

## 2. 報告事項等

### 2.1. 庶務 (豊田幹事)

#### 2.1.1. メール審議 (括弧内は審議期間)

- ・役員選出細則改正について (2012/9/15~22) : 2012年9月12日総会で議決された会則改正 (副会長2人制) に伴う役員選出細則の改正が承認された。
- ・Goldschmidt Conference (GC) 担当幹事新設について (10/14~21) : 毎年の GC の運営に対して地球化学会としての対応を担当する GC 担当幹事に益田晴恵評議員を充てる件について、承認された。毎年の GC 運営のうち会長が担当してきた部分について担当し、適宜会長がフォローアップする。
- ・学会賞等選考委員、鳥居基金委員の選挙 (12/22~29) : 学会賞等選考委員 (任期2年) 3名および鳥居基金委員 (任期3年) 1名がそれぞれ改選された。
- ・金沢大学「微弱放射能測定を利用する先導的共同研究拠点」形成の要望書について (2013/1/10~14) : 山本政儀会員より、標記拠点形成を文部科学省に申請するにあたり、日本地球化学会からの要望書提出の依頼があった。異論なく、承認。植松、高橋評議員からは積極的に支援すべきとの意見が寄せられた。要望書を山本会員に送付した (1/18)。

#### 2.1.2. 幹事会

- ・2012年第4回幹事会 (12月22日(土) 12:40~17:00, JAMSTEC 東京事務所)

出席者: 吉田会長, 山本副会長, 坂本・GJ 編集委員長, 高橋・和文誌編集委員長 (13:00退席), 川幡 (14:00から出席), 原田, 平田, 南, 豊田の各幹事, 欠席者: 益田 (GC 担当) 幹事, 下田幹事

日本学術会議の大型研究計画公募への本会の対応や、法人化等について審議した。

- ・2013年第1回幹事会 (2013年2月2日(土) 13:00~16:15, JAMSTEC 東京事務所)

出席者: 吉田会長, 山本副会長, 坂本・GJ 編集委員長, 高橋・和文誌編集委員長, 川幡, 下田, 原田, 平田, 益田, 南, 豊田の各幹事, 野尻幸宏会員 (オブザーバー, 15:50より出席)

第3回評議員会の議案整理および2013年年会についての審議を行った。

#### 2.1.3. 本会管理著作物複写使用料に関する契約について

学術著作権協会 (JAC) との間で、GJ, 地球化学, および年会要旨集の複写使用料の代理徴収に関する権利委託契約を交わした (1/24)。なお、契約

締結後に JAC から「複写権等委託済表示」を出版物に付記してほしいとの依頼があったが、その必要はないとの幹事会の判断が了承された。

#### 2.1.4. 協賛，共催予定

- ・第19回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（2013年6月13～14日，主催：日本地下水学会ほか，京都大学，後援）
- ・第50回アイソトープ・放射線研究発表会（2013年7月3～5日，東京大学，主催：日本アイソトープ協会，共催，村松康行会員を運営委員として派遣）
- ・第1回レーザーワークショップ（2013年9月4日，主催：レーザー分光分析研究会，幕張メッセ，協賛）

#### 2.1.5. 推薦・調査依頼

- ・日本学術会議アンケート「新公益法人法への対応および学協会の機能強化のための学術団体調査票」（10/17提出）
- ・（独）大学評価・学位授与機構の機関別認証評価委員会専門委員候補者：蒲生俊敬会員，中野孝教会員の2名を推薦（10/25）

#### 2.1.6. 2013年年会の後処理関連

昨年は九大 LOC が要旨集印刷を国際文献に発注しなかったため，残部が国際文献になく，2件の購入申し込みには庶務が対応し，販売した（9，10月）。要旨集を JST へ1部（LOC が送付），日本化学会（庶務が送付，1部は国会図書館用）へ2部寄贈した。

#### 2.1.7. 広告

- ・PTT 株式会社より広告や年会出展ブースなどに関する質問が寄せられ，「地球化学」2012年第4号への広告掲載を受け付けた（2012年11月）。
- ・2012年広告掲載（HP 含む）企業に請求書と2013年広告案内を送付（1月）。広告案内は，2012年の年会での出展企業にも送付した（1/21）。
- ・和文誌第4号に掲載予定だった SI サイエンスの広告が掲載もれ（電算印刷のミス）。学会および電算印刷からそれぞれ謝罪し，当該号の広告料は請求しないことで了承を得た（1/21）。
- ・和文誌広告掲載申込は1/29現在，三愛科学（1，3号），サーモフィッシャー（1～4号）の2件
- ・2012年の和文誌が広告掲載企業に送付されていなかったことが判明し，謝罪文と広告掲載号を各社に送付した（1/23）。原因は，和文誌の送付体制が2系統となっていること（会員へは電算印刷から，広

告主へは国際文献から）を庶務幹事がよく理解していなかったため。今後はすべて電算印刷から送付することとする。

- ・広告の勧誘，問い合わせ対応の業務は庶務幹事の大きな負担となっているので，他幹事への移管，幹事新設などの仕組みを検討していただきたい（2012年第1回幹事会にて提案したが保留となっている）。

#### 2.1.8. H 25年度科研費（研究成果公開促進費）応募

- ・「国際情報発信強化（B）」に，「日本地球化学会発行国際科学誌による国際情報発信強化」として GJ のオープンアクセス経費の助成を申請（11/13）
- ・「研究成果公开发表（B）」に，2013年年会にて予定している市民講演会「東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質汚染」（副題：地球化学から知るその状況と今後の対応）の経費助成を申請（11/13）

#### 2.1.9. H 24年度科研費（研究成果公開促進費）事務

- ・状況報告書（助成を受ける Vol. 47, No. 1 が未発行のため）および連絡先登録票（学会所在地が変更となったため）を日本学術振興会に提出（1/17）
- ・実績報告書は Vol. 47, No. 1 発行後に提出予定（5/31締切）
- ・テラパブより GJ（Vol 46, No. 2～6）の請求書受領。学会 HP 広告費，学会への納付金（2012覚書参照）を差し引き¥3,361,674円。うち270万円を科研費で支出予定。

#### 2.1.10. 学会賞・鳥居基金応募状況

1月31日の締切（消印有効）に対し，学会賞2件，功労賞1件，奨励賞5件の応募と，鳥居基金の国内研究集会3件，海外渡航1件の応募があった。学会賞は第2回評議員会（6月）までに，鳥居基金は3月末までに各委員会にて選考予定。

#### 2.1.11. その他

- ・公益社団法人日本地球惑星科学連合（JpGU）第7回学協会長会議（2012年10月2日（火）13：30～15：30 東大地震研，庶務幹事が代理出席）
- ・年会要旨集および GJ に掲載された要旨または論文（各1件）の転載許可依頼が来たので対応した（10月）
- ・「地球と宇宙の化学事典」（朝倉書店）の印税と編集料については，多くの学会員執筆者及び編集委員には学会に寄付してもらうこととなっている（50～100万円の範囲，編集代表 蒲生俊敬会員による）。朝倉書店との出版契約証書および編集料支払契約書



の取り交わしは蒲生会員の名前（単記名）で契約された（10月）。

- ・和文誌の残部の保管方針について：現在、和文誌の残部20～30冊が電算印刷から国際文献に送られ、年度途中から入会した会員への送付などに利用された後、保管されている。一方、2012年10月に学会がテラパブと交わした契約では和文誌・GJのバックナンバーの販売・保管はテラパブが行うことになっている。学会保管分（5冊）以外はテラパブでよいようにも思われるが、運用上問題がないかどうか今後要検討。

## 2.2. GJ（坂本編集委員長）

### 2.2.1. 発行・編集状況

2012年 Vol. 46, No. 6 は12月に発行された。1月1日現在の投稿数は149報、うち受理40、却下58、審査中51となっている。特集号は第57回年会「南太平洋—パタゴニア地域の地球化学総合研究」に基づく特集号（東大・折橋会員）、第58回年会「水圏環境地球化学—佐竹洋先生記念シンポジウム」に基づく特集号（富山大・張会員）、Goldschmidt 2013 “Refractory Grains, Volatiles, and Organic Molecules Inherited from the Interstellar Medium” に基づく特集号（Lydie Bonal, Shogo Tachibana, Henner Busemann）を予定している。

### 2.2.2. その他

Geochemical Awards 2013受賞候補者の選考が終了した。受賞者選考委員会に推薦予定。

## 2.3. 和文誌「地球化学」（高橋編集委員長）

### 2.3.1. 2013年の主な編集方針

No. 1より表紙を刷新、No. 3を60周年記念号とする予定。2014年より編集長交代を予定しており、新編集長の選任と引き継ぎを行う。

### 2.3.2. 発刊予定

【2013年 Vol. 47, No. 1】企画総説「地球化学の最前線」：小栗一将，堆積物—水境界における現場測定技術の最前線，報文：遠藤亮，玉村修司，大味泰，金子勝比古，五十嵐敏文，北海道幌延町周辺の帯水層の堆積環境と地下水中のリグニン濃度・有機物のC/N比，博士論文抄録：金子雅紀，カスカディア縁域付加帯における有機物の起源と微生物バイオマーカー

【2013年 Vol. 47, No. 3】二部構成とし、(1)地球化学のこれまでの歩みを振り返り、若手を激励する記事、(2)30年後である2043年の仮想的本誌「＝「地

球化学」Vol. 77」を作成し、そこに掲載するオリジナル論文・総説論文を集める（執筆者に30年後になりきって頂き、その時の論文として、仮想的に記事を書いて頂く）予定。執筆予定者（敬称略）は(1)：和田英太郎，野津憲治，杉崎隆一，長沢宏，海老原充，(2)：鳥海光弘，丸山茂徳，田中剛，蒲生俊敬，荒井章司，加藤学，植松光夫。

### 2.3.4. 掲載予定記事の編集状況

報文審査中2件，投稿総説論文審査中1件。企画総説「地球化学の最前線」は，宮原正明（東北大学）「隕石中に存在する高圧鉱物の生成メカニズム」，高橋淳一（NTT研究所）「アミノ酸および有機分子の光学異性の最前線」を予定。

## 2.4. 企画（平田幹事）

### 2.4.1. 日本地球惑星科学連合（JpGU）大会

5月19日(日)～25日(金)に幕張メッセにて開催される。現在，参加申し込みおよび要旨投稿受付中（早期投稿：2/3終了，最終メ切：2/15(金)）。

### 2.4.2. 2013年ゴールドシュミット国際会議

8月25～30日にイタリア・フィレンツェにて開催される。地球化学会として協賛金を支援する予定。日本地球化学会会員は登録費割引があるかどうかを確認中。学会公式ホームページ（home）には日本地球化学会のロゴは掲載されていない（注）。要旨投稿メ切は4月12日(金)，早期参加登録メ切は6月25日（最終メ切は7月の予定）。

(注)：GSJロゴはGC 2013 ホームページのトップページではないが，以下に掲示されている。

<http://goldschmidt.info/2013/sponsorsView>

### 2.4.3. 日本地球化学会第60回年会

9月11日(水)～13日(金)に筑波大学にて開催される。実行委員長は野尻幸宏会員。日本鉱物科学会との共同開催。鉱物科学会との共通セッション（4つ：今年には公募なし）と，学会基盤セッション（2月中旬以降に公募予定）から構成される。今年も学生発表賞（口頭，ポスター）を授与する予定であり，評議員の皆様には審査をお願いしたい。なお，日本質量分析学会討論会（実行委員長：長尾（東大））が9月10日(火)～12日(木)に筑波エポカルにて開催される。日程は未定だが，同位体・無機質量分析計関係の1日セッションが計画されており，プログラム等の重複に注意が必要。連絡をとりながらプログラムを編成したい。

年会前日（9月10日(火)）にショートコースを開催

予定。年会在日本地球化学会と日本鉱物科学会との共同開催であることから、ショートコースの講師は両学会からそれぞれ2名推薦いただいた(地球化学会推薦:岩森(東工大),大河内(JAMSTEC),鉱物科学会推薦:橘(北大),井上(愛媛大)の各会員)。ノウハウ関係の講演は、丸岡委員の推薦により Thomas Parkner 氏(筑波大学)に決定。現在、日本鉱物科学会と学生会員の割引等について議論中。連合大会を通じて宣伝する予定。

2.5. 広報(原田幹事)

2.5.1. 学会ホームページ

1月4日からトップページを改訂、今後徐々にマイナーチェンジ予定。年会HPの改訂にも着手。

2.5.2. JpGU大会, GC 2013

JpGU大会での展示ブースは昨年と同じ場所(1階奥)で申込み済み。GC 2013は展示ブース申込み準備中、ノベルティとして昨年同様のボールペンかGC 2016日本開催の宣伝入り名刺サイズの複数年カレンダーを検討している。

2.6. 会計(南幹事)

2012年度会計の決算作業中。印刷費, 発送費, 行事費が予算超過したが, 委員会活動費, 会員業務委託費は予算を下回り, 広告料収入は堅調であった。

2.7. 会員(下田幹事)

9月から12月までの会勢は以下の通り。除名者の中には単なる会費納入忘れの会員も含まれているようなので, 引き続き会員となってもらよう評議員からも働きかけてほしい。

日本地球化学会会員数(2012年12月31日)

会員種別	人数	契約口数	GJ 冊子希望	不要
一般正会員	709		284	425
学生正会員	129		69	60
うち, 学生バック	(56)		(31)	(25)
シニア正会員	58		29	29
賛助会員	10	10	9	1
名誉会員	11		6	5
合計	917		397	520
(寄贈)			17	
(GJ 発送総数)			414	

会員異動(2012/5/1~2012/8/31)

【入会】

(9月)

会員番号 会員名 会員種別

9282841	神林翔太	学生バック
(10月)		
9282842	栗本宜孝	正会員
(11月)	なし	
(12月)	なし	
【退会】		
(9月)	なし	
(10月)	なし	
(11月)	なし	
(12月)		

会員番号

会員名

会員種別

0280916	増田宣泰	一般正会員
0282088	山本温彦	一般正会員
1280607	高松武次郎	一般正会員
1281350	雁沢好博	一般正会員
1282252	鈴木崇史	一般正会員
3281743	長谷川 浩	一般正会員
4281553	三島康史	一般正会員
5281998	大塚良仁	一般正会員
5282232	原 和敬	一般正会員
7280326	宮本正道	一般正会員
7280876	山崎正夫	一般正会員
8281629	藤巻宏和	一般正会員
9282343	長久保定雄	一般正会員
9282505	星野美保子	一般正会員
9282508	松岡かおり	一般正会員
9282652	JO, HYUN-JA	一般正会員
9282698	有山 薫	一般正会員
9282701	村井彰宏	一般正会員
9282507	小泉早苗	学生正会員
9282589	萩原崇史	学生正会員
9282621	佐藤晋太郎	学生正会員
9282630	長島加奈	学生正会員
9282675	ヴ ティ ジュウ フオン	学生正会員
9282695	片山樹里	学生正会員
9282703	佐野和広	学生正会員
9282790	木本洋	学生正会員
9282769	藤原将智	学生バック
0280057	藤原鎮男	シニア正会員
1280094	樋口英雄	シニア正会員
8280590	多賀光彦	シニア正会員

【除名】

(9月) なし

(10月)	なし	
(11月)	なし	
(12月)		
会員番号	会員名	会員種別
0282107	前田泰延	学 生
9282470	山崎秀策	学 生
9282514	中川裕介	学 生
9282524	林 和樹	学 生
9282547	森下和彦	学 生
9282559	江里口和隆	学 生
9282561	飯野倫裕	学 生
9282564	伊佐純子	学 生
9282571	平松裕亮	学 生
9282587	杉本雅明	学 生
0281227	福田 理	正会員
2281148	佐々木信行	正会員
3281215	古川路明	正会員
3281680	山名 智	正会員
3282258	JENKINS, ROBERT	正会員
7281518	古宮正利	正会員
8281362	小関武宏	正会員
9281086	中島 隆	正会員
9282358	Bhattacharya, Partha	正会員
9282541	藤永公一郎	正会員
9282598	安 瑾鎬	正会員

【会員種別変更】

(9月)			
会員番号	会員名	変更前	変更後
6280505	鹿園直建	一般正会員	シニア正会員
(10月)	なし		

(11月)			
8280482	齋藤和男	一般正会員	シニア正会員
9282764	石田章純	学生正会員	一般正会員
(12月)			
81280458	落合正宏	一般正会員	シニア正会員
7280199	兼岡一郎	一般正会員	シニア正会員

2.8. 第5回地学オリンピックについて（丸岡評議員）

NPO 法人地学オリンピック日本委員会から依頼があり、日本地球化学会会員に協力いただいた、第5回日本地学オリンピック（国際地学オリンピック2013インド大会 国内一次選抜）が12月16日に行われた。参加者は812名（申請者数は1,011名）、このうち予選成績優秀者60名が、3/24～26につくば市で行われる本選に進出。問題作成へのご協力に感謝する。<http://jeso.jp/about/sponsors/>に協賛団体として日本地球化学会が紹介されている。

2.9. その他

Geochemical Society（米国地球化学会）とのMOU（覚書）締結について（会長）：GSからの提案に応じる形で大枠のみ記載したMOUを検討している。GC 2016については別途取り決める。将来は欧州地球化学協会（EAG）とのMOUについても進める。

2.10. 次回幹事会・評議員会予定

2013年度第2回幹事会：5月25日(土) 12:00（午前中 GC 2016準備委員会）  
第2回評議員会：6月にメール会議として開催  
（庶務幹事・豊田 栄）

### ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会、書評、研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上、電子メールでの原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2013年8月頃を予定しています。ニュース原稿は8月下旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会ニュース・HP 幹事）

川幡穂高

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5  
東京大学大気海洋研究所  
海洋底科学部門

Tel : 04-7136-6140

E-mail: news-hp@geochem.jp

原田尚美

〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2-15  
海洋研究開発機構（JAMSTEC）  
地球環境変動領域

Tel : 046-867-9504 / Fax : 046-867-9455

E-mail: news-hp@geochem.jp